

第4学年 総合的な学習の時間指導案

日時 平成25年10月8日(火) 2校時

指導者 仙台市立荒浜小学校

教諭 千葉 俊介

場所 4年1組教室

1 単元名 「災害に備えて」

2 単元の目標

○ 見いだす力

非常時に困るであろうことを想像し、その中から自分たちで解決できそうな課題を選ぶことができる。

○ みつめる力

自分の命を守るために取るべき行動を考え、日頃の備えの大切さを理解することができる。

○ かかわる力

友達の発表を聞き、よいと思ったものはメモするなど、相手の立場になって物事を考え、認め合うことができる。

3 指導に当たって

(1) 児童の実態 省略

(2) 教材について

本教材では、仮想家族である荒浜太郎君一家の非常時の行動を考えていくことで、子供たちができる限り現実に近い状況を想定しながら、自分自身の課題として、避難時のよりよい行動や非常時に自分に何ができるのかを考えることができるようにする。また、地震発生の時間や季節、避難場所、周囲の状況等を具体的に設定することで、より具体的に非常時の行動について考えさせる。

(3) 研究との関連

<研究テーマ> 自他の「いのち」を大切にしようとする子供の育成
～防災教育を通して～

<学年部テーマ> 防災への備えについて知り、周囲と協力しあって対応することができる子供の育成

○研究の視点(上学年部)

視点① 「いのち」を大切にしたいという思いや考えを持たせるための教材の工夫

- ・児童にとって、身近で実態に即した題材を取り上げる。

視点② 「いのち」を大切にしようとして協力して行動させるための単元構想の工夫

- ・主体的に取り組ませるために、日常生活における様々な災害を意識させる場を設定する。

視点③ 防災教育カリキュラムの改善

- ・「防災教育副読本」の活用を中心とした年間計画を、実践を通して修繕・改善していく。

(4) 児童の実態を踏まえた指導の工夫

仮想家族の体験を基に、地震後の状況を考えさせることで、全員が共通の認識で課題に取り組むことができるようにする。また、グループで話し合ったり、友達の発表をメモしたりする活動を多く取り入れ、子供達同士の交流の中から課題を見つけさせたい。

4 指導計画（全30時間）

(1)防災の年間指導計画における本単元の位置づけ

	学習活動	評価の観点			評価(■)
		見 い だ す 力	み つ め る 力	か か わ る 力	
課題設定①	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな自然災害を知ろう。(2) 		○		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな災害があることを知り、自分の命を守る意識を高めている。(観察)
	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の避難について考えよう。(3) 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 自分と家族の命を守るための地震発生時の取るべき行動を考えることができる。(観察・ワークシート) 地震発生後の生活における困難に対して、自分たちで解決できることを考えることができる。(観察・ワークシート)
	<ul style="list-style-type: none"> 非常用袋について考えよう。(2) 		○		<ul style="list-style-type: none"> 日頃から非常時に備えることの大切さを知り、非常用袋の中身や置き場所などを考えることができる。(観察・ワークシート)
	<ul style="list-style-type: none"> 新聞紙で防災グッズを作ろう。(2) 		○		<ul style="list-style-type: none"> 新聞紙でスリッパを作ったり、新聞紙で簡易ボックスを作ったりして、非常時の安全について考えることができる。(観察・新聞紙の防災グッズ)
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を知ろう。(1) これまでの学習を振り返り課題を選択する。(2) 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動について知り、非常時、誰かのために役立つことへの意識を高めている。(観察・発言) これまでの学習を基に、自分なりの課題を選ぶことができる。
情報収集①	<ul style="list-style-type: none"> 課題について調べる。(3) 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題について、本やインターネットを有効に活用して調べることができる。(観察・ノート)
	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを整理し、分かったことをまとめる。(3) 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを表や図、写真などを使って、自分なりにまとめることができる。(ノート・観察)

課題設定②	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に支えてくれた人々の取り組みを知る。(2) 	○			<ul style="list-style-type: none"> 災害時の自衛隊・消防署の取り組み、地域の防災活動等の重要性を理解することができる。(観察・発言)
情報収集②	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に支えてくれた人々の活動を調べる。(5) 調べたことを整理し、分かったことをまとめる。(3) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に支えてくれた人々の活動を本やインターネットを有効に活用して調べることができる。(観察・ノート) 調べたことを表や図、写真などを使って、自分なりにまとめることができる。(ノート・観察)
まとめ・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 調べてみて分かったことや今後取り組んでみたいことなどを発表する。(2) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを表や図、写真などを使って、自分なりにまとめることができる。(ノート・観察) 友達の発表を聞いて、よいところや自分と違うところを見つけることができる。(ノート・観察)

(2)本単元の指導計画

	活動名	主な学習内容	育てたい力
第1次 2時間	いろいろな自然災害を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 防災副読本等を活用し(P24～25, 32～33), いろいろな災害があることを知り, それらの災害から安全に身を守る方法を確認する。 	<p>いろいろな災害があることを知り, 自分の命を守る意識を高める。 (みつめる力)</p>
第2次 3時間 (本時2/3)	災害時の避難について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 在宅時に地震が起きた場合のイメージを持ち, どのように行動すべきかを考える。 地震発生後の自宅から避難所までの道のりや避難所での生活において困るであろうことを考え, その中から自分たちで解決できそうな事柄を選ぶ。 	<p>自分と家族の命を守るための地震発生時の取るべき行動を考える。 (みつめる力)</p> <p>地震発生後の生活における困難に対して, 自分たちで解決できることはないかを考える。 (見いだす力)</p>
第3次 2時間	非常用袋について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 非常用袋の大切さを知り, 非常用袋の中身や置き場所などを考える。 	<p>事前に災害に備えることの大切さを知り, 実践しようとする。(みつめる力)</p>
第4次 2時間	新聞紙で防災グッズを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> 新聞紙でスリッパを作ったり, 新聞紙で簡易ボックスを作ったりして, 非常時の安全について考える。 	<p>非常時の不便な生活の中でも, 工夫して生活しようとする。(みつめる力)</p>

第5次 1時間	ボランティア活動を 知ろう	・ 震災時に実際に見たボランティア活動を思い出したり、防災副読本で紹介されているボランティア活動を知り、自分たちに出来る非常時の活動を考える。	非常時、誰かのために役立つことへの意識を高める。(みつめる力)
------------	------------------	---	---------------------------------

5 本時の指導

(1) ねらい

地震発生後の、避難所までの避難行動について考えることができる。

(2) 指導過程

	学習活動（予想される児童の反応）	留意点・支援（◎） 評価（■）
導 入 7 分	1 本時の課題を知る。	◎ 荒浜太郎君一家が地震に見舞われるという想定で授業を進め、全員が共通の状況を考えられるようにする。
	地しんが起きて、家から出た後に、どんな行動を取ればいいのか考えよう。	外部の状況、「地震が起きた時間帯」、「季節」などを具体的に確認する。
展 開	3 逃がっている間に困ることは何か考える。 ※ 電気もついていないから下が見えなくて怖い。 ※ ガラスの破片が散らばっていてけがをしそう。 ※ のどが渇く、お腹が空く。 ※ トイレに行けない。 ※ あたたかいものを持っていないのでとても寒い。	◎ 4人グループを2つ作り、話し合いながら模造紙に考えを書き込ませる。 ◎ なかなか災害時の状況を想像できない児童には、個別に声掛けする。 ■ 地震発生後の、避難所までの道のりで困ることを考えることができる。(ワークシート)
28 分	4 考えたことを発表する。	◎ 友達の発表を聞いて「なるほど」と思ったことはメモさせる。
ま と め 10 分	5 本時を振り返り、学習感想を書く。	◎ 気になったことや自分たちで解決できそうなことをワークシートに書かせる。

(3) 評価

具体の評価規準	大地震発生後の、避難所までの道のりで困ることを考えることができる。
十分満足できる状況	大地震発生後の、避難所までの道のりで困ることを考え、友達の意見をメモすることができる。
Cへの手立て	周囲の状況を想像できるよう声掛けする。

(4) 板書計画

災害にそなえて

地しんが起きて、家から出た後に、こまることは何か考えよう。	